

出向く宮農レポート

～農学校を卒業し、産直農家へ～



北部宮農センター 尾張旭地域
山内 章弘

今回出向いたのは、尾張旭市の安野智子さんがプチヴェールを栽培する圃場です。安野さんはP4の「クローズアップ」で紹介している平成27年開校の尾張旭市農学校の第一期生でした。農学校卒業以降は、産直出荷者として季節の野菜を栽培し、尾張旭グリーンセンターひまわりマルシェへの出荷を中心に学校給食への出荷にもご協力いただいています。また、収穫した野菜を離乳食に加工して販売しています。さらに今年度は、JAあいち尾東プチヴェール部会の部会長を務めるなど多忙な毎日をご過ごされています。

出向いた時期は9月中旬、圃場では安野さんがプチヴェールの苗を植え付けている真っ最中でした。植え付け中の苗の状況を確認すると虫食い跡が見られ、葉裏を確認すると小さなコナガの幼虫を発見しました。捕殺いただくことと、苗が活着した頃に殺虫剤「グレーシア乳剤」、殺菌剤「Zボルドー」の散布をしていただくよう案内しました。また、これからの季節は病害虫の発生が更に増加するので殺虫・殺菌剤での予防を徹底していただくよう重ねて案内しました。



安野さんにインタビューしてみました!!

Q 農業をはじめたきっかけはなんですか？
また、何年前からはじめましたか？

A もともと食に関する仕事をしていて食育の勉強をしていくうちに、農業が人々の健康や幸福のためにいなる役割が大きいことに気がつき、自分も実践してみたくなりました。JAを通じて知った地元の農家さんでお手伝いをさせてもらったり、尾張旭市の農学校で1期生として学び、6年ほど前から少しずつ自分の圃場を管理できるようになりました。

Q 産直出荷をはじめたきっかけは？

A 農学校では、四季折々の野菜の育て方、肥料や農薬の使用法などを学び、出荷をするということを経験しました。自分の名前の付いたバーコードシールが貼られた農作物が売り場に並んだのを初めて見たときはドキドキしました。

どんな生産者も同じだと思いますが、おいしかったと言われることが一番はげみになり、やりがいを感じます。より多くの方に食べてもらえるよう、良いものを安定して作れるようになることが大事だと思います。

Q 今後の目標について教えてください。

A まずは自分自身が健康であり、環境に配慮したおいしい野菜を年間通じて生産できるようになりたいです。規格外野菜を利用した加工品の生産にも取り組んでいるので、こちらも規模拡大できるように頑張りたいです。



プチヴェール(非結球あぶらな科葉菜類)に登録のある殺虫剤・殺菌剤



グレーシア乳剤

- 希釈倍数: 3000倍
- 使用液量: 100～300L/10a
- 使用時期: 収穫7日前まで
- フルキサメタミドを含む農薬の総使用回数: 1回



Zボルドー

- 希釈倍数: 500倍
- 使用液量: 100～300L/10a

※使用に際しては製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。

※本誌に記載されている「プチヴェール」は株式会社増田採種場における登録商標(登録商標第6195210号)です。